

11・7 日比谷へ!

2010年10月19日
3

全学連(織田陽介委員長)書記局通信

Tel 050-3036-6464
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

国際連帯の力で、 菅・戦争政権打倒を!

11・7までの残る20日間、全力疾走しよう

全国の学友のみなさん! 10月21日の国際反戦デー闘争から11月7日までのラストスパートに入った。

何よりも訴えたいことは、世界大恐慌から戦争に突き進む帝国主義に対し、労働者・学生の大反戦デモを叩きつける11月1万人決起としようということだ。

それは一方で、新安保懇、日本版海兵隊創設、中国・北朝鮮への挑発的な侵略戦争演習、さらに武器輸出三原則の緩和から米帝の臨界前核実験容認、沖縄・辺野古新基地建設へのめり込む菅・民主党政権の打倒である。

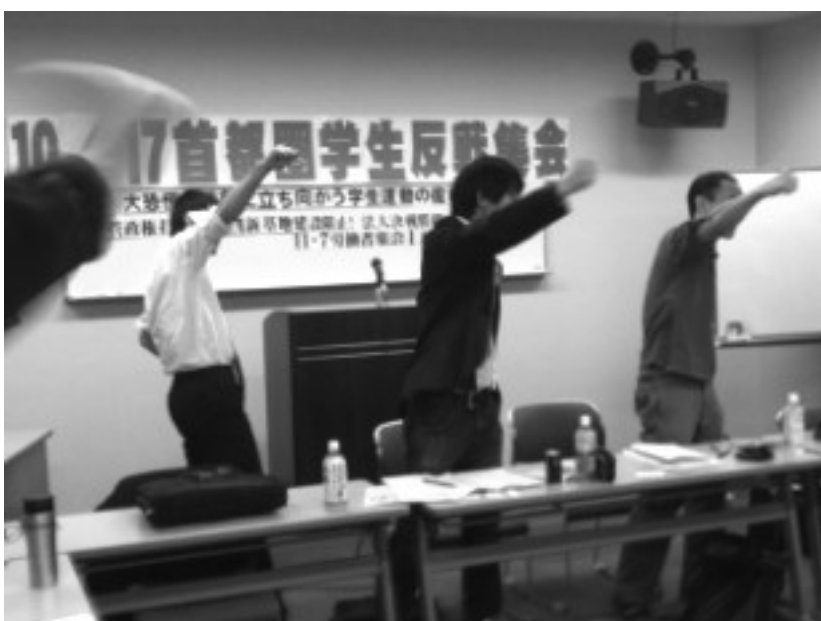
他方で、沖縄・中国・アジアの労働者民衆との限りない連帯だ。釣魚台問題を契機にした中国の「反日デモ」は中国スターリン主義の思惑をこえて、失業と戦争に怒る労働者(失業者)が中心の反資本・反政府デモへと発展している。今年5月以降の全土での日系資本へのストライキ決起に続き、

中国労働者階級は自らの本当の敵が「戦争と大失業」を引き起こす帝国主義とスターリン主義であることをつかみ取りつつある。そして日本だ。10月16日の、元航空幕僚長・田母神の呼びかけた「中国弾劾デモ」には2800人が集まったとされるが、主催者は「日の丸以外の旗類・拡声器の持込はご遠慮下さい!」と叫び、行動を求めて活性化する青年・学生の怒りが自らのファシスト的(愛国主義的)思惑をこえてラジカルな反戦(反政府)デモへと発展していくことを恐れている。

11月労働者集会で、この怒れる日本の青年・学生を丸ごと闘う陣形に組織できる。打倒すべき敵は帝国主義・資本主義であることをハッキリさせ、朝鮮・中国・アジア・世界の労働者階級と団結しよう。「国家主義」ではなく「国際連帯」を! 帝国主義侵略戦争ではなく、国境をこえた反戦闘争を!

11・7集会にこそすべてを獲得する力がある。

【1】「10・17首都圏学生反戦集会」うち抜く



10月17日、国際反戦デー統一行動の一環として、東京にて「首都圏学生反戦集会」を開催し、11月労働者集会に向かって論議を深め決定的な団結をうち固めた。

坂野陽平・全学連委員長代行の司会でスタート。

織田陽介・全学連委員長の集会基調では、「11月1万人の大結集へ本気になろう。なぜ11月1万人決起が必要なのか。この時代に1万人が集まったらどういう可能性を持っているのか。どうやって1万人を集めるのか。こうした議論を深めて自らが残り3週間でなすべきことをハッキリさせよう」と冒頭に提起。

釣魚台問題では、日米の戦争演習の開始、中国政府の弾圧をはねのけた青年労働者・学生のデモの爆発、事態は具体

的に進んでいる。問題は目の前で始まろうとしている戦争を許すのかどうかであり、私たち学生が自国の戦争に対してどういう態度をとるのかではないのか。

「弱腰」と叩かれている菅政権がやっていることは、新成長戦略であり、新安保懇であり、「尖閣奪還作戦」演習であり、「4・9 政治和解」による労働組合と国鉄闘争の解体だ。今こそ、菅・戦争政権の打倒を!

大恐慌および「戦争と大失業」の基底には、戦後政界体制の崩壊がある。71年ニクソンショックと74~75年世界同時恐慌で基本矛盾を爆発させ、新自由主義政策も破産した帝国主義に「次」はない。中でも最弱の環が日本帝国主義だ。

11月集会の意義を5点。一つに、戦争攻撃に対して安保・沖縄闘争を爆発させること。二つに、動労千葉を軸にした

国鉄闘争で反撃へ。三つに、非正規職化と首切り攻撃に対する怒り。四つに、連合労働運動を打倒し労働組合を甦らせる。五つに、大学を学生の手に取り戻そう。大学こそイデオロギーの中心であり、だからこそ支配階級は大学・学生に攻撃のターゲットを絞っている。よって、われわれはキャンパスから学生の反乱を巻き起こすことで「未来を決する力は学生にある!」ということを見せつけよう。求められているのは行動であり、学生の行き方に迫る闘いだ。われわれこそが主流派だ。11月7日へ一心不乱に突き進もう!

この基調提起に応え、初参加者を先頭に活発な議論が行われた。その論議から11・7参加者が生み出され、自らのキャンパスにおける重要な決起も始まっている! 首都圏学生は全国の最先頭で11月への学生結集のうねりを巻き起こそう!

【2】10・15第4波法大包围デモを貫徹

10月15日、後期1発目の法大包围デモをうち抜いた! デモ出発前、文化連盟委員長・斎藤郁真君(法2、退学処分)が「菅政権打倒! 学祭規制粉碎! これが今回のデモのスローガンです。今こそ学生は政治を取り戻そう! 11・7労働者集会の1万人結集をかちとろう!」とアピール。続いて社会科学研究会の洞口朋子さん(経2、無期停学処分)が、14日に社研の学祭からの排除問題で法大当局との交渉に決起した1年生の闘いを報告し、「宮崎学生センター長(法)は、社研排除を正当化し抗議に向き合うことを拒絶したばかりか、学祭実を批判する学生を『邪魔者だ』とまで言い放った。しかもここまで学生の存在がおとしめられて、学祭実は沈黙と容認だ」、「同じ法大生が仲間と学祭を守るために立ち上がっている! 今こそ法大生はデモで怒りを示そう!」と訴えた。最後に倉岡雅美さん(人環3、停学1年処分)が「みなさん! モノ・カネじゃない学生の誇りと存在、未来をかけてともに行動しよう! とともに生き、闘おう!」と呼びかけた。

元気よくデモ隊は総長室へ出発! デモ初参加の学生も決起し、キャンパスから飛び出て沿道とともに歩く学生も。「規制粉碎! 処分撤回! 沖縄新基地建設阻止! 北朝鮮・中国侵略戦争阻止!」とシュプレヒコール。道行く労働者からは激励や声援が。市ヶ谷一周のデモを貫徹しました!

戦争切迫情勢の中で、1年生を先頭に文連の学内からの



決起が始まっています。どんな処分や弾圧でも、学生の怒りの炎を消せはしない! 学祭規制、CSK(学祭実)支配、そして不当処分の三つが敵の破綻点だ。

社研排除と1年生無視で、このまま粛々と「自主」法政祭が行われていいはずがない。さらに法大生の怒りを組織し、再度の法大包围デモにうって出よう! 当局屈服の学祭実を弾劾し、学内分岐と決起を促進しよう。今こそ法大から60年・70年をこえる巨大な学生運動を復権させよう! そして、法大生は「文化連盟」の旗のもとに11・7労働者集会へ!

【3】10・21闘争に向かって闘いは進む

(1) 全国統一行動要項

東北大学 「10・21東北大学生行動」

* 12時10分から、昼集会(川内北キャンパス中央)

* 18時から、屋内集会(C403教室)

斎藤郁真・法大文化連盟委員長の講演

京都大学 「10・21京大集会」

* 正午から、昼休み集会(京都大学本部キャンパス・クスノキ前) & 学内デモ

* 18時半から、屋内集会

織田陽介・全学連委員長の記念講演

広島大学 「10・21広大反戦集会~再びのアジア侵略と改憲阻止! 沖縄新基地建設阻止! 菅政権打倒!」

* 正午から、キャンパス昼集会、公開質問状提出行動

* 16時半から、屋内集会(総合科学部 K207)

倉岡雅美・全学連副委員長の講演

富山大学 「10・25富大集会」

* 10月25日(月)正午から、正門前で集会と市内デモ

坂野陽平・全学連委員長代行が登場

(2) 闘いの報告

全国学寮交流会報告

10月16日、東北大学日就寮で全国学寮交流会が行われ、京都大学熊野寮・吉田寮、富山大学新樹寮、仙台市内大学の寮生が集まり、30人で熱い議論が交わされました。

今回の交流会で決定的だったことは一つに、11・7労働者集会に向かってゆく中での時代認識の重要性をはっきりさせたことです。「何度も丁寧に話していく中で、『重要だね』という反応が返ってきた」「方針形成のためにも時代認識で一致することが重要。それがないと戦術論議にしかならない」と闘いの中からつかんだ教訓を会議で共有できました。

いま一つに、新樹寮廃寮阻止闘争の路線をめぐって議論したことです。改修は阻止できないのではないかと、という意見に対して、「改修阻止をはっきりさせよう。それは敵が誰なのかを寮生に示すということだ。寮生同士がいがみ合うのではなく、団結するために闘おう」。次々に真剣な意見が出される中で、「自分は廃寮になったら闘いは終わりだと思っていた。けれども廃寮になったからといって闘いは終わりではなく、自治会をつくって反撃すればよいということをつかんだ」と闘う仲間が元気になったことが決定的です。

学寮交流会の最大の課題は組織拡大だ。11・7集会には、全国で廃寮攻撃に直面している寮生にこそ結集してほしい。「新成長戦略」を推し進め、自治寮をつぶそうとする菅政権に対し、ともに怒りの声を結集させよう! (東北大・A)

広島大

先週12日(火)からの週もクラス討論を貫徹し、毎回総括しながら進んでいきました。内容は先週の「釣魚台問題を契機とした日本のアジア侵略反対! 大学の戦争協力許すな11・7へ」というところから、「大恐慌が資源・市場・領土の奪い合いの戦争になろうとしている この時代に学生はいか

なる態度をとるのが 学生は団結して戦争をとめる存在だ 10・21、11・7へ」という内容に練りあげていきました。こうした中で、米オバマ政権による臨界前核実験のニュースが入ってきました。ただちに14日(木)-15日(金)は「米帝の核実験弾劾! 広大はロスアラモス国立研究所との提携をやめろ」という内容で登場し、学生から圧倒的な関心を引きました。後期開講以来「侵略戦争絶対反対!」で断固と登場してきたことが、学内情勢を切り開いているのを実感します。

先週後半に一気に署名が集まり始めました。「前期から全学連のことを見ていたが、とてもがんばっていますね」、「しっかりした考え方をもち活動している」、…。政治討論の数も増えてきました。こうした中、『前進』を読もう! というのぼりを持って登場したところ、ただちに学生と議論になっています。学生の耳目を集めてきていることが実感できます。10・21集会への広大生の大結集会から11・7へ攻め上ります! (K)

東北大

11・7集会への大結集に向けて、模造紙資料を使ってクラス討論をし、学生の注目を集めています。とりわけ、産経



フランスで高校生の反乱が始まった!

10月7 - 8日に行われた全国各地の年金制度改悪反対デモに1万5千人の高校生が参加して以来、高校生の反乱は爆発。高校を封鎖し、労働者のデモに続々と合流している。UNL(全国高校生同盟)の発表によれば、これまでに全フランスで4302校の高校のうち、900校の高校生が何らかのかたちで闘争に決起し、550校で高校生の手で封鎖が行われたという。各地で高校生は機動隊と激突し、これまでに264人が逮捕されている。

彼らは「サルコジは破産した。年金問題は私たちの問題だ。労働者と連帯して闘おう」などのスローガンを掲げている。年金問題は自分には直接関係ないと言いながらも、年金改革法はナンセンスと思っている高校生が多い。「若者からは職を奪っておいて、高齢者はあくまでもぎりぎりの年齢まで働かせる」、「私たちの親は、私たちのために働いてきました。だから、私たちは、親が正当な年金を受け取るために闘うのです」と。

年金制度改悪反対闘争は、今年に入ってから5月と6月にそれぞれ20万人規模のデモとストが闘われ、夏休み明けの9月7日、23日、10月2日、7日、8日、12日、14日、15日...と連続的にストとデモが爆発した。事実上のゼネスト情勢だ。とりわけ夏休み明けの高校生のデモ、ストライキ参加で闘いは勢いを増し、サルコジ政権は完全に追いつめられている。

新聞に報じられた米日による「尖閣奪還作戦」と、新安保懇での「日本版海兵隊」の資料は衝撃をもって受け止められています。その中で、「11・7集会は何を訴える集会なのか」という論議がおり、「戦争反対を訴えるだけではなく、戦争を引き起こしてしか生き延びられない資本主義という社会のあり方を根本からひっくり返そうと訴える集会だ」と討論が始まっています。

その一方で、学生が戦争に反対し、未来を取り戻すために立ち上がっているときに、大学当局は「授業妨害」と言ってクラス討論を弾圧してきている。それどころか、菅政権の新成長戦略の推進を叫んで、学生を「パブリックコメント運動」に動員しようとしている。学生の団結と可能性をトントン押しつぶし、資本主義の枠内での改良運動に組織し、もって資本主義の延命のために学生を国策・戦争へと動員する東北大当局と対決し、10・21国際反戦デー闘争から11・7労働者集会への総決起をかちとろう！（F）

京都大

11・7へ向けて、「菅政権打倒」を訴えてクラス討論を展開しています。「政治に興味ない」という意見は多いが、政治と切り離されているのではなく、「民主も自民党と同じ」「選挙をやっても変わらない」から興味をもてないという。「全学連が政治家になればいい」という意見も。それに対して、全員が政治を取り戻し行動することだ、11月にクラス全員で結集してほしい、という論議をする中で、クラス全体の関心が討論に集中されてきた。学生同士が釣魚台



問題、菅政権の政策をめぐって意見を出し合うクラスも。その中で「菅を打倒してどうするのか」が問われるが「G - W - G´で成り立つ社会をひっくり返すこと」という返答にはクラス全体にどよめきが走った。

大衆的な政治論議の活性化が生まれている。求められているのは、11月集会の展望を語りつくすことだ。350人が結集した10月15日の関西労働者総決起集会では、関西生コン支部がゼネスト攻防を全面的に報告し、この時代だからこそ労働者は闘える、ストライキで労働者は組合と自分に自信をつける、どんな産業・地域の労働者もやれるということと呼びかけた。新自由主義と対決する新たな労働運動の展望で勝負し、10・21-11・7大結集へ！（Y）

首都圏・私立Y大学

11・7を戦争反対の1万人決起の日と位置づけ、「横浜APEC・日米首脳会談粉碎、日米合同軍事演習と沖縄基地建設を阻止するために、学生は反戦デモの先頭に立とう！」と訴えて、学生との結合をかちとっています！

ある学生は、法大当局が戦争翼賛右翼の襲撃に対しては沈黙し、戦争反対を訴えた学生を処分していることを聞いて、処分撤回署名を書いてくれました。署名運動はこの11月の闘いを経て反戦署名としての意味を獲得し、ますます学生の問題意識とかみ合うものになっています。また、前期に知り合った学生と夏休み明けに久々に再会し、「全学連大会はどうでしたか」と向こうから聞いてきて討論に。大学や社会の仕組みに「薄っぺらで絶望している」という彼に、「菅政権打倒の11・7一万人デモをやろう」と呼びかけ、討論関係を継続していくことになりました！戦争切迫情勢の中で、多くの学生が行動方針を求めています。「11・7一万人デモで戦争止めよう！」とガンガン呼びかけよう！（J）

【4】組織政策の緻密化と組織拡大の観点

本段階での全国学生参加予定者 名を、いかにして残り20日間で3倍5倍へと拡大していくのか。

一つに、現時点での参加予定者全員が、11月1万人を絶対に実現するという気概でオルグ戦に突入することだ。「11月集会こそ自分の求めていたものであり、11・7は自分自身の集会だ」と燃え立つ(燃え立たせる)ことだ。残り20日間は、「組織者を組織する」ことにすべての力を傾けよう。その観点からすべての行動方針や組織政策を計画しよう。11月7日に出発する直前までの緻密化された組織政策(学習会、キャンパス行動、集会、街宣、...)を全体で確認することも、10・21闘争の重要な獲得目標だ。

二つに、全国拠点大学において、寮、サークル、自治団体など大衆的拠点からの動員に最後までかけきることだ。拠点からこそ、5人10人という大量決起が生まれてくる。

三つに、クラス討論のあり方について。一方で量を増やしてキャンパスを面として宣伝・扇動で覆い尽くしていくという観点から、他方で「11月活動家をつくり出す」という観

点からも意識性・集中性を持ってやり抜こう。

四つに、組織戦の基本中の基本は、「チケット販売」と「集会賛同集め」だ。この点、まだ構えが甘い。全国的な意識性のバラツキが数としてくっきりとあらわれている。参加予定者へのチケットと賛同の持ち込みを貫徹した上に、参加予定者には必ずチケット×集会タブロイド×賛同用紙をセット渡して仲間への拡大を要請すること。

五つに、街頭宣伝を重視する。首都圏を中心に、街頭・駅頭で青年労働者・学生の参加が続々と決まっている。

総じて、『前進』こそが11月組織化の最大・最良の武器であり、とりわけ第2459号(10月11日付)4～5面における世界大恐慌論と国鉄決戦を基軸にした11・7決起論で、キャンパスに討論の嵐を巻き起こしていくことだ。『前進』を読み、『前進』を広め販売し、『前進』で激論し獲得しよう。絶望を煽り、学生の可能性を否定するあらゆるブルジョアイデオロギーとの党派闘争に『前進』で勝利しよう！

<以上>